平成２７年度　　学校関係者評価書（後期）

長洲町立腹栄中学校

１　経営方針

教育目標
～笑顔追求（腹栄中大好き）日々の小さな努力でスクールプライドの育成～

人間尊重の精神を基底に、基礎・基本の定着を図り、豊かな心とたくましい体力・気力を培い、生涯学び続ける意志と態度を身につけさせる。更に、学校及び郷土の歴史と伝統を引き継ぎ、新しい文化を創造する能力と自立するための「生きる力」を育てるために学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む指導体制を確立し、明るく元気に学校生活を送る腹栄中学校を創造する。

〈目指す学校像〉
◇美しい学校
・整備された花壇と潤いのある掲示物
・言語環境の整備
◇活力のある学校
・師弟同行
・夢実現への日々の努力と達成感
◇地域に生きる学校
・学校情報の積極的公開と学校評価の充実

〈目指す生徒像〉
◇自主
　礼節（挨拶掃除）を重んじ自他の人権を尊重する生徒

◇生気
　授業や学校行事、全校ランニング等で、心身の鍛練に
　励む生徒

〈目指す教職員像〉
◇認褒励伸教職員
・是々非々を重んじ教育的愛情と人権感覚を備えた教
　職員
◇授業で勝負する教師
・学習の実践的指導力を追求し学びの喜びを共有する
　教職員

２　重点事項

◎スクールプライドの醸成
　きまりを守り、正義を大切にし、思いやりの心を持ち真面目にコツコツ努力する生徒を学校のリーダーとして育てる。その輪を広げ、すべての生徒の自尊感情と規範意識を高める質の高い教育活動を実践し、腹栄中生としての自覚と誇りを育てる。
◎いじめゼロ・不登校の解消
　生徒一人一人の人権を尊重した教育活動の実践と居場所づくりを通して、いじめ不登校の予防と早期発見、組織的対応と家庭や専門機関との連携強化に努める。
◎校務改革と授業改善
　県立教育センターと連携し、校務改革と授業改善を行い、生徒と向き合う時間の確保と「学ぶ喜びを実感できる授業」に努め、全国学力学習状況調査や県学力調査等で国の平均や県の定着率を上回る。さらに計画的で細やかな進路指導の充実を図る。

◎評定基準　　Ａ・・・【十分適切である】、Ｂ・・・【おおむね適切である】、Ｃ・・・【課題がある】、Ｄ・・・【課題が多く速やかな改善が必要】

３　自己評価結果

ＮＯ			評　価　項　目	主な取組状況	達　成　状　況	評価 職員	生徒	保護者	来年度への改善方策	学校関係者評価委員会 評価	学校関係者評価委員の意見等
1	確かな学力の定着	（１）	教科書等の忘れ物をしない。	・帰りの会の充実、生活ノートの活用 ・学校へおいてもよい教科書等の周知 ・個人用整理ファイル（多目的教室設置）の活用 ・教科担任による働きかけ	多目的室を整理し個人用の学習用具置き場を作ったことで忘れ物は少なくなった。教職員の評価もＢ（前回Ｃ）と向上した。おいて良い物そうでない物については、掲示しているが、徹底はされていない。また、多目的室の整理の面で課題が残る。	Ｂ	Ａ	Ｂ	・学校においてもよい物の周知をする。 ・帰りの会での教科連絡の徹底 ・委員会活動による教科書、多目的室の定期的な点検 ・多目的室の使い方の共通理解（教師・生徒）	Ｂ	・立腰は、小学校でも指導しているが、高学年になると姿勢が悪い子が増える。高学年部を中心に継続指導して中学校へ送りたい。 ・家庭学習は、小学校でもきめた時間できていない児童が多い。５，６年は、５０分～６０分継続して学習できる習慣をつけさせたい。 ・学力の基礎となる授業が通常に成立するようになったことが、まずは大きい成果だと思う。学校の努力の成果だと思う。また、数値的にも成果が表れたことは、更にすばらしい。 ・小学校においても、家庭学習が全くできていないという児童がかなりいるのが現実である。中学校にご迷惑をかけている。小学校高学年から習慣化を定着させたいと指導しているが、なかなか難しい現状である。 ・来年度からノーメディアデーを校区小中学校で設定する予定である。このことで、ゲームやテレビ、携帯・スマホの使用制限ができることと思う。ＰＴＡと連携して改善していきたい。 ・本校も町約束の家庭学習（中学校）ができていない。家庭学習の時間がこの程度でありながら県学力調査では県正答率を上回っている。学校の授業が充実しているのだろうが、これに家庭学習を加えれば、さらに伸びると思う。 ・立腰指導については、年度はじめばかりでなく、年間を通し教師が意識し、継続した指導が無いと確立しない。教師側の意識化が大変大切である。
		（２）	授業中、私語や勝手な事をしない。	・「授業中のマナー」の掲示（教室前面） ・「教師は私語があっている間は待つ」ことの共通実践 ・当該生徒への丁寧な指導 ・授業展開の工夫（めりはりのある授業）	３年生は、全体として落ち着いているが、進路が早く決まった生徒の私語が少し増えてきた。２年生は、静かに授業を受けることができている。１年生は、教科により態度に差が見られ、特別支援教育支援員の先生の協力を依頼する場合も多くあった。	Ｃ	Ｂ	Ｂ	・共通実践事項の検討と確認 「授業開始１分前には、教室内で待機」 「私語があっている間は待ちます」等 ・学習規律（授業中のマナー）の検討 ・年度当初の徹底事項の確認		
		（３）	「立腰」の姿勢を保ち、集中して学習できている。	・校区内小中学校での共通した取組 ・「立腰」の掲示 ・授業中、教師による適確な指導	「立腰」を教室前面に掲示することで、教師も生徒もそのことを意識するようになった。結果として、徐々にではあるが、主体的な学びをすることができるようになってきた。しかし、年度終盤になると、教師側の「立腰」に対する意識が低くなってきた。	Ｃ	Ｃ	Ｃ	・「立腰」の重要性を教師が認識し、実践していく。 ・学力と姿勢の相関関係を資料等準備し、生徒に伝える。 ・研究授業だけでなく普段の授業で教師が「立腰」を意識しているかどうか確認する場を定期的に設定する。		
		（４）	学ﾎﾞｰﾄﾞ等を利用し、生徒が意欲的に学習できている。	・県立教育センターとの連携 ・全職員による研究授業の実施 ・校内研修による職員の意識改革 ・県立教育センター指導主事による講話（11月6日） ・研究部より「学ボード」の活用例の紹介(1月12日)	班による学び合い活動で「学ボード」を活用することで、「伝え合う」「一緒に考える」時間の確保ができた。どの教科でも共通した取り組みをすることで、子どもたちにも班活動の決まり事が確立された。県学力調査の結果向上にも反映された。	Ｂ	Ｂ	Ｂ	・研究授業等を通し、効果的な使い方を検証していく。 ・日頃の授業ではどんな場面で学ボードを使用しているか、教職員相互に実践例を出し合う。 ・数値的な目標を掲げ、全職員で取り組む。	Ｂ	
		（５）	個別の補充学習や発展学習ができている。	・授業のＵＤ化 ・少人数指導、ＴＴによる授業実践 ・定期テスト前、各学年部による個別学習の実施 ・入試前、各教科担当による対応	定期テスト（年４回）前の個別の補充学習は、各学年部で対応することができた。入試前の３年生への対応も放課後、教科担当者で実施できた。教師間で板書の仕方等も共通理解を図り実践できた。別室に登校する生徒への学力保障も担任、心の教室担当で行った。	Ｂ	Ｃ	Ｃ	・定期テスト前の個別指導の時間を確保する。 ・少人数指導やＴＴ授業における個別の対応について検討する。 ・授業展開の学校化、共通実践		
		（６）	家庭学習（1,2年９０分以上、３年生１２０分以上）ができている。	・県学力調査（質問紙）の分析 ・自学ノートの活用 ・家庭学習時間の調査と結果公表（学級通信等）	県学力調査（質問紙）の結果、家庭学習の時間が３０分より少ない生徒の割合が、１年（３１．１%）、２年（４０．２%）、３年（２３．１%）と県と比較してかなり多い。自学ノートの提出については、担任による丁寧な指導が継続的に行えた。	Ｃ	Ｃ	Ｃ	・その日の授業とリンクした自学ノートの活用方法、次の日の予習を兼ねた活用方法など、他の学校の取り組みも参考にし、学力向上部会で検討し提案する。 ・定期テスト前の学習時間を集計し公表する。 ・ケイタイやゲームの使用方法と合わせた指導を行う。 ・ＰＴＡ推進によるノーメディアデーの設定		
		（７）	週末宿題を提出している。	・週末宿題の準備、提出の確認 ・学校通信による提出率等の情報発信 ・保護者との連携 ・自学、朝自習、週末課題と連携した取り組み（１月より：２年生）	週末宿題は、各学年で準備している。２年生では、学年で問題集を購入し、自学・朝自習・週末課題をリンクさせた試みを１月より実施している。子どもたちが真剣に問題集に取り組む姿が見られる。	Ｂ	Ｂ	Ｂ	・週末宿題を今後も継続して行っていく。 ・クラスの提出率を出し、変化を確認する。 ・個別の指導や家庭への情報提供、協力依頼をする。		

2	豊かな心の育成	（８）	学校のきまり（頭髪や服装、遅刻しない）を守ることができている。	・あいさつ運動の充実 ・生活安全委員会の活動 ・その場での適切な指導 ・通知表の活用	服装、遅刻については登校時の指導を職員全員で行ってきた。授業開始時、各行事に取り組む姿勢として服装を正す指導を行った。結果として過度な服装違反はなくなった。朝遅刻については、通知表に明記することで保護者との連携を図った。	B	A	B	・あいさつ運動の充実を図る。 ・学校行事等と関連づけて身だしなみの大切さを理解させる。 ・服装については委員会で定期的な点検を図る。 ・家庭連絡や家庭訪問	B	・登下校時の挨拶が大変よくなってきている。自ら先に挨拶するようになった。 ・先生方の評価が厳しいのは、危機感を常に持って指導されている結果だと思う。見えないところでのいじめや差別を許さない気持ちが伝わってくる。 ・挨拶運動では、中学生が定期的に小学校へ来てくれてありがたかった。 ・授業中の態度は、よくなってきている。積極的な発表を期待します。 ・美しい学習姿勢、授業態度は「立腰」に取り組むことでできてくるので、今一度、指導ください。 ・研究授業が、よい結果を出している。 ・理解していないところなど、気軽に先生に聞くことのできる雰囲気になれば、学力が伸びると思います。 ・全体的に三者の評価がはっきり分かれている。特に職員と生徒で差が大きい項目については、学校での分析を基に、生徒を認め励ます指導を続けていってほしい。 ・先日の卒業式では、在校生のすばらしい歌声、卒業生代表の涙ながらの答辞に大変感動しました。来賓席でも感激して涙する姿が多く見られました。どんどん学校が良くなっていることが伝わってきました。
		（９）	笑顔で、大きな声で、立ち止まって、先に挨拶できる。	・保護者や生徒会執行部、学級によるあいさつ運動 ・部活動単位での朝ボランティアの実施 ・小学校へのあいさつ運動の実施	保護者・地域の方の協力による挨拶運動、委員会や部活動を主体とした朝の活動の活性化により、挨拶をする生徒は増えてきた。生活安全委員を中心に行った小学校へのあいさつ運動も、生徒へ挨拶の大切さを意識づけする良い機会となった。	C	B	B	・クラスによるあいさつ運動を充実していく。また、小学校へのあいさつ運動も継続して行っていく。 ・教師から積極的にあいさつをしていく。 ・できたことを認め、ほめ、子どもたち一人一人に自信を持たせていく。		
		（１０）	人をいじめない。差別しない。人の嫌がる事を言わない。	・人権教育、人権学習（年４回）の計画的な取組 ・アンケート等によるいじめの早期発見、早期対応 ・人権教育講演会(12/5)「いのちの終わりを見つめて～生きる力を支える絆～」講師：伊藤華様、坂西信平様 ・性教育講演会の実施(2/23)	いじめアンケートの実施、いじめを受けている子の把握、管理職による個人の面談など早期対応ができた。友人関係で悩んでいる生徒へは、担任・ＳＣ・養護教諭等がチームで対応し、保護者とも連携して適切な対応ができた。命について、相手を思いやることについて授業や講演会を軸に考えさせた。	C	A	B	・いじめアンケートを実施し、実態の把握に努める。 ・人権学習を計画的に行う。 ・人権集会を開く。 ・運営委員会、学年会で情報を共有し、早期対応をする。		
		（１１）	友達や先生に丁寧な言葉遣いができている。	・職員室への入り方の徹底 ・生徒と生徒同士の人間関係づくり ・教師と生徒の信頼関係づくり ・その場での適切な指導	職員室への入り方は全職員で指導の徹底ができている。友達同士の丁寧な言葉遣いは不十分である。また、教師への言葉遣いはできていることそうでない子がいる。できていない子へはその都度指導を行った。	C	B	B	・お互いのよいところを認めあえる活動を取り入れ、自己有用感を高めていく。 ・教職員自ら言語環境を整える。 ・教師への言葉遣いについては、その都度指導していく。		
		（１２）	おもいやりや感謝の気持ちを持って生活できている。	・道徳教育推進教師が中心となり、年間計画に従った「道徳の時間」の実施及び授業時数の確保 ・地域ボランティア、ゲストティーチャーの活用 ・帰りの会の活用（今日のＭＶＰ）	道徳教育推進教師が中心となり、項目・題材を指定し、年間計画通り道徳の授業を行い、生徒の心を耕すことに努めた。地域の方が授業や掃除等に協力される姿を見て感謝の心も育ってきた。帰りの会等で生徒の自己有用感を図った。	C	A	B	・「道徳の授業」の確実な実践、道徳的価値や実践力を身につけさせる。 ・幼・保、小、中連携による体験活動の充実を図る。 ・地域ボランティアの方々と一緒に活動する機会を増やし、生徒自身の心を育てていく。		
		（１３）	委員会や学級の係、当番の仕事を責任を持って取り組むことができている。	・教師や友達による自己有用感の涵養 ・委員会活動の活性化 ・職員間の連携、情報交換	委員長など生徒を前面に出し学校行事を行うことで責任感を育てることができた。また、個々の役割においてはできたことを関わりを持つ教師がほめ・励ますことで自己有用感の涵養を図ることができた。学校の中心が２年生にかわり各方面で意欲的な活動が見られるようになった。	C	A	B	・学校行事を工夫し、生徒が前面出てに出る場面を増やす。 ・専門委員会の活動を活性化する。 ・帰りの会等を工夫し、子どもたちが話す機会を増やす。 ・生徒集会等で表彰する機会を増やす。		
3	健康安全教育の推進	（１４）	早寝・早起き・朝ご飯の生活習慣が身についている。	・保健だよりの発行 ・幼・保、小、中の連携 ・学校と家庭の連携	本校の生徒は朝ご飯をほとんどの子が食べてきている。遅刻しないように早起きする子も多い。早寝に関しては家庭との連携を密にする必要がある。特にゲームやＳＮＳによる夜更かし生活リズムの崩れへの注意が必要である。	B	B	B	・保健だよりや学級通信を活用し、生活習慣の大切さを伝えていく。 ・教育諸計画で、教科等と食の関係を確認する。また、そのことを意識して授業等を行う。	B	・大変良くなっている。 ・小学校でも高学年になると、掃除をまじめにしない子が出てくる。「無言掃除」も低学年がよくがんばっている。 ・ヘルメットは、きちんとかぶって登下校している生徒がほとんどである。 ・掃除を頑張る生徒が少しずつ増えていることは、すばらしい。掃除ができちんとできている学校で荒れた学校はないと、昔から言われているように、貴校の更なる向上にこの掃除への取組強化は、大変有効だと思われる。
		（１５）	自転車のマナーやルール（ﾍﾙﾒｯﾄ・タスキ・安全運転）を守っている。	・登下校時の指導 ・部活担当者による指導 ・青パトによる下校時の巡回	職員の交通指導もあり、違反する子はほとんどいなくなった。年に数回行った下校指導でもルールを守っている生徒がほとんどだった。踏切の渡り方に関しては地域の方からの助言もあり指導を行った。	B	A	A	・「命の大切さ」を全校集会や学級で伝えていく。 ・あいさつ運動での取組を継続していく。 ・部活動ごとに下校時の指導を行う。 ・委員会を中心にした自転車点検の実施		
		（１６）	無言清掃を時間一杯､一生懸命できている。	・目指す生徒像として全職員による取組 ・担任による掃除場所の割り振り ・掃除用具等の充実	時間いっぱい掃除に取り組む生徒の姿も見られる。教師が一緒に掃除をすることで協力する生徒もいる。教師が何をするのか細かく指示を出すことで集中して掃除をする生徒の数も増えてきた。	C	B	B	・縦割り班による掃除配当を検討する。 ・婦人会掃除ボランティアとの連携を図る。 ・掃除ができていない子へは、個々に対応を図っていく。		
		（１７）	給食に感謝し、給食を残さず食べる努力をしている。	・担任を中心に学年部による給食指導 ・教科等と給食を関連させた指導の充実 ・給食委員会による残滓調査（年３回）	給食エプロンを着ないで当番の仕事をする生徒はいなくなった。放送委員による残滓０の呼びかけは毎日することができた。給食委員による残滓調査（２月：５日間）の結果は、1年（７．１ｋｇ）２年（０．２ｋｇ）３年（２．５ｋｇ）だった。	A	A	A	・担任や学年担当による指導を行う。（教室に早く行く） ・心身の成長、健康の保持増進のための望ましい食事の取り方等について理解させる。 ・当番のエプロン着用の徹底を図る。 ・給食委員会による残滓調査の実施		
		（１８）	ｹｲﾀｲやｽﾏﾎの利用は、家庭でﾙｰﾙを定めて利用している。	・「腹栄中学校スマホ等の利用のルール」配布、活用 ・県教委「くまもと携帯電話・スマートフォンの利用５か条」への取組 ・スマホ・ケイタイ安全教室（全学年）の実施(12/22)	１２月のアンケート結果では、「子どもに携帯電話を持たせていますか」で「持たせている」が３８%、「フィルタリングをかけていますか」で「かけている」が５２%だった。スマホ・ケイタイ安全教室は子どもたちもしっかり参加できた。	C	B	B	・学年学級懇談会の中で携帯電話の使い方の啓発をしていく。 ・民間企業のボランティアサービスを利用して情報モラル学習を進める。		
4	潤いのある教育環境	（１９）	学校にある道具や施設を大切に利用している。	・靴箱、スリッパなど整理の仕方（写真）の掲示 ・昼休み体育館使用時の指導	昼休みの体育館使用については、職員が指導にあたっていたが、ボールの使用方法など注意する点が多くあった。道具や施設の使い方も注意不足な面が見られた。トイレスリッパの整理は保健委員会を中心に呼びかけたり活動を行った。	C	A	A	・道徳教育の充実 ・望ましい在り方（掃除道具入れ、靴箱、トイレのスリッパ等）の写真掲示 ・昼休みや掃除の時間の指導 ・体育委員会による道具の使い方の調査、報告	B	・腹赤小でも遊具やボールの片付けは、あまりできていない。トイレのスリッパもまだまだ並ばない。継続して指導して、小中連携を図りたい。 ・地域の方々との連携により、花のある環境や校舎内外のすっきりとした環境が整備されている。 ・地域婦人会等からの情報であるが、両小学校では掃除を真面目に取り組んでいる。中学生になって掃除ができなくなっているのだろう。これには、中学校の指導の問題があるのではないか。学校全体で指導改善してほしい。 ・地域に開放する体育館も、この２年間で破損等が多くなってきている。使い方を適切に指導しているのか疑問に思う。体育館は学校だけのものではなく、大切な地域の施設であるから、道具や公共物を大切に使う生徒を育成しないと「豊かな心をもった、優しい人間は育たない」「心の荒れた生徒」を二度とつくってはならない。
		（２０）	自転車小屋の整備や草花等の環境整備に努めている。	・環境美化委員会による朝の活動 ・バレーボール部による朝ボランティア ・花の苗植え時、地域ボランティアへの協力依頼	ヘルメットを荷ひもで固定する指導をしたことで整理できるようになった。土日の部活動で登校したときの徹底は不十分である。地域ボランティアの協力、1年生・環境委員会の活動で、花が絶えることのない学校になった。	B	B	B	・毎朝の環境美化委員会の活動を継続していく。 ・１年生による、花の苗植えの実施。地域人材の活用 ・自転車小屋の点検		
		（２１）	教室や校舎の掲示教育が充実している。	・学校改革プロジェクト（環境改革部会）の取組（各教科担当者による教科に関連した掲示、多目的ホールの活用） ・教室掲示の共通実践 ・担任による学級設営	教室前面の掲示は、ＵＤ化の視点も踏まえ全学級で共通した取組ができた。学校改革プロジェクトの一つとして校舎内の掲示計画（年２回実施）に従い、タイムリーな生徒の作品の掲示や教科に関する掲示教育が充実してきた。	B	B	B	・授業で学習した生徒の感想や美術作品等をその時期に合わせて掲示していく。 ・掲示教育担当者により、定期的に掲示物の点検を行う。 ・ＵＤ化の視点を踏まえ、教室設営の共通実践		
		（２２）	机や椅子、ロッカーの整理整頓ができている。	・日直や帰りの会での取組 ・多目的室の活用 ・授業開始時における指導	多目的室の活用もあり、教室後ろのロッカーは使用しやすくなった。机・椅子の整理は、各学級で差が見られた。	C	B	B	・委員会でコンクール等を実施する。 ・朝の会、帰りの会の時間を利用して整理整頓を行う。 ・放課後、担任による確認を実施する。 ・戸締まり時、管理職による点検。担任への連絡。		

５	学校生活全般	（２３）	学校行事（運動会や文化祭、合唱コンクール）に積極的にとりくんでいる。	・校内駅伝大会の実施(12/5) ・校内書き初め大会(1/14) ・１、２年生、縦割りによる、卒業式の歌の練習	本年度はじめての取り組みである校内駅伝大会では、どの生徒も自分の区間を真剣に走り、周りの生徒は一生懸命応援する姿が見られた。卒業式に向けた在校生の歌の練習では、２年生が中心となり１年生を巻き込んだ活動ができた。	A	A	A	・文化祭、合唱コンクールへ学級や学年、または学校総体として取り組む。 ・学校応援団による授業参加 ・生徒の自己有用感を高めるための運営の工夫	A	・評価の分析は、学年ごとで集計し各家庭にお知らせした方が、より気づきがあると思います。また、保護者では記載しにくい項目もあり、項目のブラッシュアップをされた方がいいと思います。あくまでも自校の絶対評価が大切だと思います。 ・職員、ＰＴＡの団結した取組が高評価につながっていると思う。 ・挨拶は、生徒たちが小学校に来たときによくしてくれる。（特に部活動の生徒たち） ・部活動において、サッカー部の活躍、中体連陸上大会男子優勝は、素晴らしい。指導された先生方に敬意を表します。 ・本年度、ＰＴＡ会長を中心とするＰＴＡの活躍は、大変すばらしかった。本校がこの２年間で立ち直った背景には、ＰＴＡ活動の大きな支援があった。学校職員とＰＴＡが見事に融合したすばらしい１年であり、今後もこのような関係を継続してもらいたい。 ・評価項目「学校行事の充実」が三者とも「Ａ」評価であった。教職員による新規行事へ取り組む意欲、生徒のやる気、それをバックアップするＰＴＡ活動が見事に調和すれば「Ａ」評価につながるということである。この良い見本を他の項目につなげていってもらいたい。 ・朝の挨拶運動は、毎日、校長や教育委員が正門に立って指導されている。本当に感謝している。しかしながら、その後に通勤されてくる先生方もいる。勤務時間等もあると思うが、本来なら先生方が早く来て指導された方がいいように思うが、いかがなものだろうか。
		（２４）	部活動等からマナーやチームワークの大切さを学んでいる。	・各部活動での挨拶、礼儀等の指導 ・朝のボランティア活動への参加	部活動顧問・コーチによる日々の練習指導のなかで、互いに切磋琢磨し励まし合うこと、協力することの大切さを生徒は学ぶことができた。体育館や校舎にはいるとき靴をきれいに揃えるなど競技以外でのマナーの向上がみられた部活動もあった。	B	A	A	・部活動顧問、コーチによる中学生としてのマナーの継続した指導を行う。 ・練習や試合を通し、仲間がいることや同じ目標をもって取り組むことの大切さを実感させる。		
		（２５）	学校からの便りや学校ホームページで学校の様子を紹介できている。	・学校ホームページの定期的な更新 ・学校便り、学級通信の配布 ・安心・安全メールの活用	学校便り、学級通信は定期的に発行されている。学校便りでは子どもたちの感想がたくさん紹介されていた。学級通信には担任の先生の思いが書いてあった。安心安全メールは教頭先生が主となり、有益に活用された。	A	B	B	・学校通信、学級通信の発行を行う。 ・学校ホームページの早めの更新を行う。 ・学校安心安全メールの有効活用。		